

激動と復興の時代
時代を生きぬいた
作品
1945年±5年
2016年
5月21日(土)~7月3日(日)

1945±5

The Works that Survived through the Turbulent and Reconstruction Period

開催要綱

本展覧会は、1940年から50年までの11年間の美術に焦点を当てます。

1940(昭和15)年から1945(昭和20)年までの前半は、日中戦争、アジア・太平洋戦争の時代、1945(昭和20)年から1950(昭和25)年までの後半は連合国によって占領統治された時代にあたります。年代を追うと、

1937(昭和12)年 日中戦争

1941(昭和16)年 アジア・太平洋戦争

1945(昭和20)年 敗戦

連合国による占領統治

1952(昭和27)年 独立

となります。この時代は、日本の近代史の中で最も激動の時代といえるでしょう。そのあいだ、美術家はどのような表現を行い、社会とどのような関係を持ったのでしょうか。

戦中、美術の活動は厳しく統制され、戦争遂行などに協力することが求められました。藤田嗣治をはじめとする画家たちは戦争画や銃後の人々を顕彰するための絵などを制作したのです。

ただし、個々の美術家の営みはそれに限りません。1940年代の初めはモダンな絵も描かれ、風景画や静物画においては個人の視点を込めた作品が相変わらず作られました。

一方、敗戦を経た戦後間もないころは、廃墟の絵が多く描かれました。文字通り、画家たちは廃墟から出発したのです。

また、戦後はすぐに戦中と断絶したわけではありません。戦前から活躍していた作家、たとえば、福沢一郎や吉原治良、鶴岡政男らが再び自分の世界を取り戻すことから始まったのです。世相を描いたり、自分の世界を守ったり、戦時中に対する批判を絵に込めたりと、美術の世界は徐々に広がっていきました。

以上のように、時代の大きな渦に巻き込まれながらも、美術家の活動は多様な様相を呈します。このことを、約70名の作家、約200点の作品によって振り返ります。洋画を中心に、一部日本画、彫刻、資料を加える予定です。

開催情報

会期

2016(平成28)年5月21日[土]—7月3日[日](38日間)

休館日：月曜日

開館時間：午前10時—午後6時(金・土曜日は午後8時まで)

入場は閉館の30分前まで

※前期(—6月12日[日])、後期(6月14日[火]—)で一部展示内容が変わります。

会場：兵庫県立美術館 企画展示室

主催：兵庫県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

後援：公益財団法人伊藤文化財団、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会

協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

助成：公益財団法人花王芸術・科学財団

観覧料

一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、

高校生・65歳以上650(550)円、中学生以下無料

※()内は前売および20名以上の団体割引料金

(高校生・65歳以上は前売なし)

※前売券は一般、大学生のみ、2016年3月20日[日]から5月20日[金]まで販売します。

※主なチケット販売場所：JTB各支店・総合提携店、ローソン、ファミリーマート、セブンイレブン、サンクス、ほか京阪神のプレイガイド。

※コンビニ商品番号：前売券 0242677 / 当日券 0242678

※障がいのある方(65歳以上をのぞく)は各当日料金の半額、その介護の方1名は無料。

(65歳以上をのぞく)

※各種割引の適用は、会期中、美術館窓口のみ。要証明。

本展のみどころ

□ 近代美術の錚々(そうそう)たる美術家の作品を展示します。

あいみつ おかもとたるう かつら きたがわたみじ きたわきのぼる こいぞりょうへい
 鬯光・岡本太郎・桂ゆき・北川民次・北脇昇・小磯良平

こまいてつろう すだくにたるう ひがしやまかいい ふくざわいちろう まつもとしゅんすけ
 駒井哲郎・須田国太郎・東山魁夷・福沢一郎・松本竣介

まるきいり やましたきくじ よしはらじろう
 丸木位里・山下菊二・吉原治良 など

ふじたつくはる
 □ 藤田嗣治は、初期の戦争画《シンガポール最後の日(ブキ・テマ高地)》を出品します。本展の後の藤田嗣治展を見るうえで参考になることでしょう。

「生誕130年記念 藤田嗣治展—東と西を結ぶ絵画—」
 7月16日(土)–9月22日(木・祝)
 兵庫県立美術館にて開催予定

かづきやすお
 □ シベリア・シリーズで著名な香月泰男が、「満州国」のハイラルから家族に送った軍事郵便を20点(前期・後期10点ずつ)展示します。香月の遺族が香月泰男美術館に寄託していたのが、最近、寄贈され、館外ではじめて展示されます。香月の家族への愛情あふれる文章と、後の本格的な絵の下絵にもなった美しい絵をご覧ください。

みずき
 □ 先日、逝去された水木しげるが、捕虜時代に鉛筆で描いた素描5点を展示します(広島では、別の5点を展示)。片腕をなくしたにもかかわらず、丁寧な描き方で、戦争が終わった喜びが画面からあふれ出ているような素晴らしい素描です。

[本展巡回予定]

7月30日[土]–10月10日[月・祝]

広島市現代美術館



1. 小磯良平《斉唱》1941年 兵庫県立美術館蔵



2. 松本竣介《議事堂のある風景》1942年 岩手県立美術館蔵



3. 香月泰男《ハイラル通信 第11信》1943-45年 香月泰男美術館蔵(展示替あり)

展覧会構成

第1章 1940年～1942年頃

1937年からの日中戦争によって、日本は戦争に突き進みます。戦争の影はいたるところで見られますが、軍需景気もあって、一部ではまだ華やかさを残していました。1930年代から続くモダンな世界を代表するのは、中西利雄や小磯良平などの女性像、松本竣介の、都市の断片をコラージュしたような都市風景画です。その一方で、戦争を題材にした作品も散見されます。

第2章 1943年頃～1945年

戦争はやがて悲壮な状況に進んでいきました。本展では、銃後の人々、少年兵、遺族、戦死者、出征兵など、人々の様々な営みを描いた作品を通して、この過酷な時代を垣間見ます。香月泰男が「満州国」のハイラルから送った軍事郵便には、家族を思う文章と大陸の風物が書(描)かれ、時代に左右されない人間としての感性が広がっています。

第3章 1945年～1946年頃

敗戦は、人々に様々な感慨をもたらしました。捕虜となった水木しげるが描いた素描は、南方の人々や風景をモチーフにしたことも関係するのでしょうか、戦争が終わった喜びにあふれています。一方、洋画の重鎮、石井柏亭は、杜甫の詩を題名にした《山河在》で、人間の営みのはかなさに対する、自然の不変性を表現しています。焼け野原となり、廃墟が広がる都市風景を描く画家もいました。戦後は、廃墟から始まったのです。

第4章 1947年頃～1950年

戦中の統制で抑えられていた美術の復活は、戦前から活躍していた福沢一郎、吉原治良、岡本太郎、桂ゆき、鶴岡政男たちが再び精力的に制作する様子から窺えます。丸木俊の裸体女性像は、たくましい人間の原像であるかのようです。さらに、日本画の革新を図るパンリアル協会のメンバーは、戦後のありふれたモチーフを造形に転化させました。

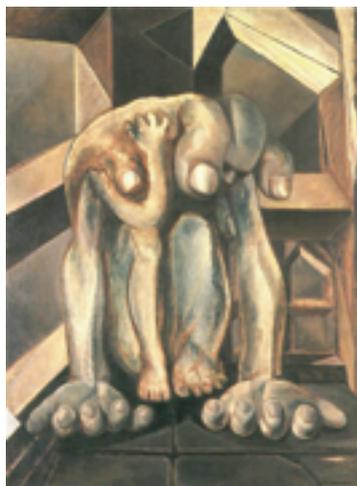
戦後の改革が進み、戦中期から時間もたつと、戦時中と戦後の断絶が徐々にはっきりとしてきます。戦時中を振り返る余裕が出てくるのです。1950年には丸木位里・俊の《原爆の図》、浜田知明の《少年兵哀歌》シリーズが始まります。



4. 中西利雄《散策》1940年 茨城県近代美術館蔵 (展示替あり)



5. 石井柏亭《山河在》1945年 松本市美術館蔵



6. 鶴岡政男《重い手》1949年 東京都現代美術館蔵

関連イベント

- 講演会
 「敗戦と美術—変わったことと変わらないこと」
 6月5日(日)
 午後2時～(約90分)
 講師：木下直之(東京大学教授、文化資源学)
 ミュージアムホール(定員250名)
 聴講無料(要観覧券・整理券*)
 ※当日午前11時から当館ホワイエで整理券を配布します。
- 学芸員によるギャラリートーク
 5月28日(土)、6月11日(土)、25日(土)
 午後4時～(約60分)
 聴講無料(要観覧券・会場入口に集合)
- ミュージアム・ボランティアによる解説会
 会期中の毎週日曜日 午前11時～(約15分)
 レクチャールーム(定員100名)
 聴講無料

お問い合わせ先

兵庫県立美術館
 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
 TEL: 078-262-0901(代表) FAX: 078-262-0903

取材・写真提供に関すること
 営業・広報グループ
 TEL: 078-262-0905(グループ直通) FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること
 担当学芸員：出原 均
 e-mail: dehara.h@artm.pref.hyogo.jp
 TEL: 078-262-0909(学芸直通) FAX: 078-262-0913

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込用紙をご使用ください。

同時開催の展覧会

県美プレミアム

〈小企画〉中西 勝展 画業と生涯を偲んで
 —兵庫県所蔵作品を中心に—
 〈特集展示〉黒のひみつ 美術のなかの黒をめぐる
 兵庫県立美術館1, 2階常設展示室
 2016年3月19日[土]—6月19日[日]
 ※本展と同時に観覧の場合は割引あり。

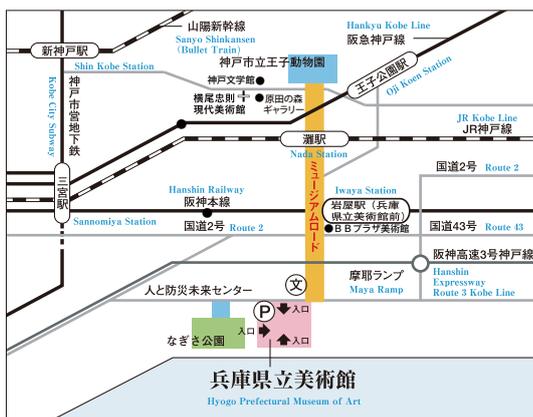
横尾忠則現代美術館での同時開催*

横尾忠則展 わたしのポップと戦争

2016年4月16日[土]—7月18日[月・祝]
 ※特別展または県美プレミアムのチケット(半券可)のご提示で、
 団体割引料金でご覧いただけます。
 (詳細はホームページなどでご覧ください)

交通案内

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分
 JR神戸線灘駅から南に徒歩約10分
 阪急神戸線王子公園駅から南西に徒歩約20分
 神戸市バス・阪神バス「県立美術館前」下車すぐ
 地下駐車場: 乗用車80台収容・有料
 ※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください
 ※団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



特別展 「1945 年±5 年 激動と復興の時代 時代を生きぬいた作品 」

2016 年 5 月 21 日[土]—7 月 3 日[日]

※ 前期（-6 月 12 日[日]）、後期（6 月 14 日 [火] -）で一部展示内容が変わります。

広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 電話 (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	作品名・制作年・所蔵 等
1	小磯良平《斉唱》1941 年 兵庫県立美術館蔵
2	松本竣介《議事堂のある風景》1942 年 岩手県立美術館蔵
3	香月泰男《ハイラル通信 第 11 信》1943-45 年 香月泰男美術館蔵（展示替あり）
4	中西利雄《散策》1940 年 茨城県近代美術館蔵（展示替あり）
5	石井柏亭《山河在》1945 年 松本市美術館蔵
6	鶴岡政男《重い手》1949 年 東京都現代美術館蔵

※上記画像を媒体掲載される際には、記載の**作品名・制作年・所蔵等**を必ず入れてください。

※作品画像は**全図で使用**してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・変更はできません。

※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。（会期終了まで）

※再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。

※Web サイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください。

※基本情報、図版使用の確認のため、**ゲラ刷り・原稿の段階で営業・広報グループまで**お送り願います。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ	『	』
	TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		F A X	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券（最大 5 組 10 名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです）		組	名分希望

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、**掲載誌・紙または記録媒体（VTR/DVD）、URL**などを、上記**営業・広報宛**にお送り願います。

※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。